

別記
第1号様式（第14条関係）

環境マネジメントシステム導入報告書

(宛 先) 京 都 府 知 事		平成30年 7月 25日
住所（法人にあっては、主たる事務所の所在地） 大阪市中央区久太郎町2丁目4番31号		氏名（法人にあっては、名称及び代表者の氏名） 取締役社長 小谷 一美
環 境 マ ネ ジ メ ン ト シ ス テ ム の 名 称	環境目標（独自のシステム）	
適 用 範 囲	宇治工場・水戸工場・大阪本社・東京支店	
導 入 年 月 日	2006年 8月 11日	
認 証 番 号	—	
基 本 方 針	<p>常に地球環境に配慮して組織的かつ継続的に環境負荷の低減に努める。このため企業活動のあらゆる分野に於いて、積極的に環境管理レベル向上を目指すとともに、環境に調和した製品・サービスの提供に努める。</p> <ol style="list-style-type: none"> 関係法令、規則等の遵守 <ul style="list-style-type: none"> 自主管理基準の設定と運用 環境負荷の低減 <ul style="list-style-type: none"> 環境に配慮した新製品の開発 資源の有効利用とリサイクル 省エネルギーの推進 地域の環境に共生した事業所の運営及び安全・健康の確保 環境に関する社内体制の充実と教育・啓蒙 	
環境に配慮した事業活動を自主的に進めていくための目標（以下「目標」という。）	<ol style="list-style-type: none"> C02排出量の削減 原単位の削減 <ul style="list-style-type: none"> 宇治工場、水戸工場について2015年度比3%の削減（※電気係数は2015年度を適用し一定とする） ゼロエミッションの推進、再資源化の向上 <ul style="list-style-type: none"> ①宇治工場：ゼロエミッションの維持 再資源化率99%以上 ②水戸工場：再資源化率1.8%向上 再資源化率97%目標 	
目標を達成するための取組の内容	<ol style="list-style-type: none"> 主要生産機の生産効率向上 <ul style="list-style-type: none"> ①出来高アップ改善活動 ②時間軸の延長（交代制の確立） 高効率化 照明のLED化 乾燥機の時間短縮による冷凍機運転時間削減 乾燥効率のアップ（トラップの改造他） 無駄の削除（ムダ取り活動） 昼休み時事務所内照明の消灯及び無人室の照明停止 外出時・帰宅時のパソコン電源オフ徹底 ノー残業デーの有効活用 再資源化が不可能な仕入れ品の納入形態変更 ゴミの分別廃棄の徹底 コピー用紙裏面紙利用の徹底 事業系一般廃棄物の細分化 	
目標を達成するための取組の進捗状況	<ol style="list-style-type: none"> こぼれロス削減し、歩留りアップ達成。夜間22時までの連続運転確立 空調機11台、ボイラー1台、送水系ポンプ11台、除湿機1台高効率タイプへ更新 照明のLED化推進、約500灯の更新実施（宇治工場、水戸工場） 時間短縮施策実施。だが、冷凍機運転時間の削減にまで至らず トラップの改造実施中。 給気ファンの間欠運転化、空調機の運用変更、井戸揚水ポンプHz数の見直し、除湿機のダンパ制御化 昼休み時事務所内照明の消灯及び無人室の照明停止の徹底 外出時・帰宅時のパソコン電源オフ徹底、声掛けし確認 大阪本社、東京支店によるノー残業デーの設定（1回/週） 一部納入形態の変更実施 紙ゴミリサイクルボックス利用の徹底、缶・ペットボトルの分別容器利用 裏紙使用専用ボックスの設置、管理資料のペーパーレス化（PDF活用） 細分化し、一部リサイクル可能となる 	
目標を達成するための取組の成果及び当該成果に対する評価	ほぼ計画通りに取り組むことが出来ている。	
事業活動に係る法令の遵守の状況	関連法規の遵守状況については1年に1回確認を行っており、これまで問題も無い。	
環境マネジメントシステムの評価及び見直しの内容	評価・見直しの必要性については、原則として1年に1回検討している。この中で平成26年度より原単位の指標の分母を乾燥機チャージ数から生産重量へ変更した。これは工場全体の指標として生産重量の方が、より適切であると判断したためである。	

注 認証番号の欄は、導入した環境マネジメントシステムについて第三者の認証を受けている場合のみ記入してください。